

- 題材ごとの観点別評価規準(案)
- 年間指導計画作成資料

目 次

- 題材ごとの観点別評価規準(案)
- 年間指導計画(A案:3学期制)(B案:2学期制)
 - 第1学年 :A案(3学期制)
 :B案(2学期制)
 - 第2学年 :A案(3学期制)
 :B案(2学期制)
 - 第3学年 :A案(3学期制)
 :B案(2学期制)



開隆堂

まえがき

平成29年に告示された新しい中学校学習指導要領解説では、「今の子供たちやこれから誕生する子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される」と述べられています。生産年齢人口の減少や、グローバル化の進展、絶え間ない技術革新が理由として挙げられ、社会構造や雇用環境が今後、大きく急速に変化していくことが予想されています。その大きな変化の一つとして、AI(人工知能)の飛躍的な進化が挙げられていますが、AIを活用するにあたっては、AIに思考の目的を与えたり、その目的のよさや正しさ、美しさを判断したりできることが、人間の強みであるということの再認識につながっている、としてこれからの学びでは何が大切なのかについて示しています。

このような社会で活躍できる人材を育成することは、学校教育に課せられた大きな役割です。今後起こるであろう多くの未知の問題に対して、正しい知識をもとに考え、豊かな発想力、創造力で解決していく力はますます必要になってきます。

新しい学習指導要領では、このような時代背景を踏まえ、育成を目指す資質・能力が明確に示されました。具体的には、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理し、全教科を通して育成することとしています。

中学校美術科の学習指導要領解説には「表現の学習は、表したいことを基に『知識及び技能』と、『思考力、判断力、表現力等』を相互に働かせながら、問題解決をする学習そのものである。」と述べられています。すでにあるものを能率よく大量生産していくのではなく、想像力を働かせて新たな価値を創造していく力を必要とするこれからの社会で、主題を生み出し豊かに表現する美術の学習は今まで以上に重要な鍵になると言えるでしょう。

また、鑑賞の学習では「自分の見方や感じ方を大切にして、造形的な良さや美しさなどを感じ取り、表現の意図と工夫、美術の働きや美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を深めるなど」することが示されています。ここでも、単に表面的な知識を学ぶのではなく、自分はどうのように感じ取って意味や価値を作り出したのかを問われる創造的な学びと位置づけられています。さらにグローバル化が叫ばれている現在において、自国や他国の文化を学ぶことは大変重要になってきます。多様な美術文化を学んでそれらを自らとらえ直して発信できることがグローバル化の進む時代を生きる全ての中学生にとってますます必要なこととなるでしょう。

これらの意味を踏まえた上で、生徒の学習意欲を高め、効果的な学びが行えるような年間指導計画を立てることが大切です。三つの柱を念頭に置きながら、造形的な見方・考え方を働かせて表現と鑑賞の二つの領域を一体的・総合的に学べるような工夫をすべきです。本資料では教科書を効果的に使いながら学習指導要領の趣旨に沿った学習ができるように計画してあります。

なお、それぞれの学びは単発で行われるのではなく、学期、学年、中学校全体、さらに言えば小学校、高校及び社会での美術と連続して見ていく必要があります。時間軸的な縦の流れと領域や内容を考えた横の広がりとして年間指導計画を作成する必要があります。本資料は、このような考えを基に、教科書を活用して確かな学びが無理なくできるような標準的な例を2学期制、3学期制それぞれの場合を想定して提示しています。各地域、学校の状況、一人一人の生徒の実態などを考慮し創意工夫した指導計画を作成する際の資料として、教科書とともに活用していただければ幸いです。

年間指導計画

指導計画の作成について学習指導要領には「題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」と示されている。単に題材を羅列するのではなく、育成を目指す資質・能力を念頭に置き、年間を通して生徒の興味関心が高まるような、充実した学びが行われるように計画するこ

大切である。また、今回の改訂で学年ごとの内容の取り扱いが示された。第1学年では全ての内容がまんべんなく学習できるように、第2学年及び第3学年では内容の選択や一題材の時間数を検討するなどして、より一層深い学習ができるように工夫する必要がある。

■ A案 3学期制による年間指導計画

第1学年を「基礎期」、第2学年を「充実期」、第3学年を「発展期」として、3年間を見通し、無理なく学習できるような題材を設定している。各学年では1学期を「導入」、2学期を「展開」、3学期を「まとめ」とする3学期制の年間指導計画である。

学期	週	第1学年	45時間	第2学年	35時間	第3学年	35時間
1学期	12週	基礎期・導入（図画工作科との関連）	12時間	充実期・導入	12時間	発展期・導入	12時間
2学期	14週	基礎期・展開	△24時間	充実期・展開	14時間	発展期・展開	14時間
3学期	9週	基礎期・まとめ	9時間	充実期・まとめ	9時間	発展期・まとめ（高校美術工芸・生涯学習との関連）	9時間
題材の構成		美術の学習への興味・関心を育てることを目的として、多様な学習を扱うようにする。		主体性や自主性を育てることを目的として、表現形式や技法を選択できる題材を設定する。		美術の学習のまとめと位置づけ、発展的な学習ができる題材を設定する。	
		我が国や諸外国の美術文化について学習する題材を系統立てて設定している。					
		表現と鑑賞を関連させて学習効果を高めるよう設定している。					

△第1学年の2学期は、14週のうち、第1週から第4週を週1時間の授業とし、第5週から第14週までを週2時間の授業を行うものとして計画している。

■ B案 2学期制による年間指導計画

第1学年を「基礎期」、第2・3学年を「充実・発展期」としている。第1学年では小学校の図画工作科との関連も考え基本的な内容から第2・3学年に無理なくつながるような題材をバランスよく配置している。また、第2・3学年では「充実・発展期」として、2年間の学びを考えて、美術の各領域の学びが段階的に充実し発展出来るように計画している。

学期	週	基礎期		充実・発展期			
		第1学年	45時間	第2学年	35時間	第3学年	35時間
前期	16週	基礎期・前期（図画工作科との関連）	16時間	充実・発展期Ⅰ	16時間	充実・発展期Ⅲ	16時間
後期	19週	基礎期・後期	△29時間	充実・発展期Ⅱ	19時間	充実・発展期Ⅳ（高校美術工芸・生涯学習との関連）	19時間
題材の構成		美術の基礎的な力を養うことを目的として、小学校図画工作科の学習との関連を考えた中学校美術の導入となる題材を設定する。		第1学年の学習を基に、表現や鑑賞の学習をより深め、より主体的な創造活動を行うため、2学年を見越した柔軟性のある指導計画を設定している。第2学年と第3学年との間でそれぞれ関連性が深い題材を設定することにより、無理なくしかもバランスよく学習を充実させさらなる発展ができるような題材設定とする。			
		我が国や諸外国の美術文化について学習する題材を系統立てて設定している。表現と鑑賞を関連させて学習効果を高めるよう設定している。					

△第1学年の後期は、19週のうち、第1週から第10週までを週2時間の授業とし、第11週から第19週までを週1時間の授業を行うものとして計画している。